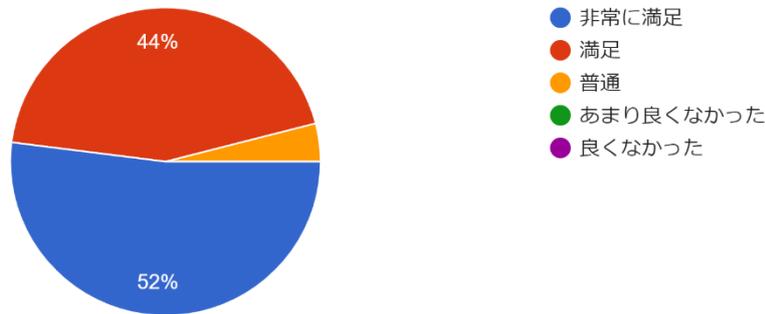


令和5年度定例研修会アンケート

今回の研修はいかがでしたか

25件の回答



その理由を教えてください。

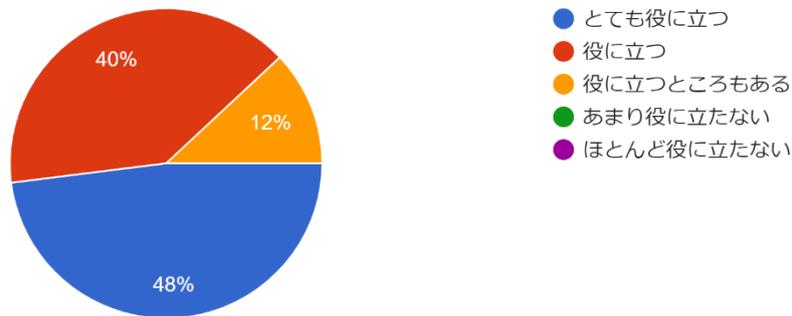
- ・ 実例を挙げて説明してくださり、大変参考になりました。
- ・ 対面式研修で、グループワークもあり良かった
- ・ 講義もあり、事例検討もありで、さまざまな角度から考えることができ、大変勉強になりました。
- ・ 午前中は講義形式で知識として新たな視点が増やせたこと。午後はより実践的な形で意見を聞くことができたため。
- ・ 自殺を巡るアプローチの一環に触れ、その奥深さを改めて考える機会が得られたからです。
- ・ 救急の話を知りたい、と希望しましたが、大変ありがたいお話を伺うことができました。事例検討も非常に濃密でした。
- ・ 自殺対策はとても幅広く学際的な領域のため、本日の研修は午前の古郷先生の講義と午後の事例検討とのセットで学べてよかったです。自殺対策の現状と課題について、救命救急プラス未遂者支援の観点からよく理解できました。『生きる支援』という大きなテーマについて、有効かつ意味ある補助線が引けて、整理しながら正しく考えやすくなりました。
- ・ 研修会場について、スクリーンの位置が低くて見えづらいところもあった。
- ・ マスクをしていたこともあってか、講演者、質問者の声が聞きづらいところがあった。
- ・ 使用料の問題もあると思われるが、会場については研修会用の施設が望ましいと思います。
- ・ 久しぶりの対面だったので、先生方と雑談含め、色々お話できて日々の励みにもなりました。
- ・ 若年層の自死について、行動経済学を援用して考えるというヒントをいただいたから
- ・ 心理臨床家として、『死にたい』思いと向き合うことは避けがたいことですが、そのことをテーマに話し合うことは日常ではなかなかできないことなので有意義でした。
- ・ 古郷先生のお話がとても参考になりました。
- ・ 午後の事例検討において、グループでディスカッションできた時間が有意義だった。
- ・ 講師の豊富な経験をきけたから。長期にチームでじっくり関わる病院臨床の面白さを聞いたから
- ・ 普段の勤務は教育領域ですが、「死」がテーマのケースが多々あります。様々なパターンやケースの話を知ることができ、大変勉強になりました。

令和5年度定例研修会アンケート

- ・救急医療の現場のお話を聞く機会は貴重で非常に勉強になりました。事例検討も難しいテーマと内容でしたが、普段職場で接する機会の少ない対象（年齢や病態が）の方だったので、貴重な機会でした。
- ・午前中の古郷先生の講義は自殺の現状と対応など具体的に知れてとても勉強になりました。午後の事例は、皆さんがどのように普段臨床されているかを聞くことができ、よかったです。事例は1つでも、十分良かったのかもしれない。
- ・4年ぶりの対面開催ということで、久しぶりに会員の先生方との交流や情報交換の場となり、大変有意義な時間であった。研修会の内容も大変勉強になった。
- ・講義と事例検討会の両方があったことで、多角的に自傷・自殺というテーマに対する理解を深めることができたため。
- ・医療の実際について学べたので。
- ・自殺、自傷にポイントを絞り、一貫した研修を受講できたのは有難かった。
- ・自分では知り得ない様々な現場の生の声が聴けたので、非常に貴重な機会でした。
- ・対面研修が再開され、講義と事例検討の二本立てのプログラムの研修をすることができたため。また、会員相互の交流もできたため。

研修会の内容はあなたの臨床や現場に役立ちそうですか

25件の回答



その理由を教えてください。

- ・犯罪等の被害者やご家族の中には死にたいとおっしゃる方もおられるので、その対応の際の役に立つと思いました。
- ・事例を臨床に実践できそうである
- ・実際に自傷や希死念慮を抱くクライアントと接する機会があるので、今回の講義で対応について確認できたし、事例検討を通して留意点などを押さえることができました。
- ・今の仕事の中で直接的に関わることはあまりないが、もし関わる機会があった時に知っておけるとよい内容であったため。ケースの緊急度をアセスメントする時に役立ちそうのため。
- ・自傷行為も含め、予防の観点に立つうえで参考になったので。
- ・どの領域にいても、不意打ちのように関係する話題ですから、どれだけ準備していてもしすぎることはありません。
- ・これまで救命救急センターに常駐されている精神科専門医の先生のお話を聴ける機会があまりありませんでした。かねてより知りたかった内容が網羅されており、大変勉強になりました。自殺の危険性や緊急性のアセスメント等、すぐに使える具体的な内容も多くてありがたかったです。
- ・普段はほとんど扱うことのないテーマですが、「死にたい」と言われる場面には、いつ直面するか分からない事だと、日々感じていたため。
- ・今回、講義された古郷先生、事例を発表された先生方、それぞれ異なる現場で葛藤を抱えながらも、自分を傷つけてしか、生きていけないところと向き合っている様子を聴かせていただき頭が下がる思いとともに自分も葛藤しながら、クライアントとか関わっていくエネルギーをいただきました。
- ・自傷～自殺企図まで該当ケースを多く抱えているため。
- ・臨床の場でも希死念慮を訴える方や、未遂される方もおり、対応方法など現場で活かそう。また対象者への理解も深まったと思う。
- ・SCでは自傷行為事例が結構あるから
- ・対応している学生の臨床像と重なる部分が多く、学生の思考や気持ちの理解にとっても役に立ちそうだと感じました。

令和5年度定例研修会アンケート

- ・死にたいほどつらいという気持ちは、つらい状況にいる方は少なからず持っていると思うので、その気持ちをそのまま受け止めることの重要性を学びました。
- ・関わっている患者さんに同じような対応が必要なこともあり、何を勉強していけばよいか分かりました。
- ・臨床にて実際に支援をしているから
- ・本研修で得られた知識や情報は、実際の臨床現場や関係機関との連携に必要とされる重要な内容であるため。
- ・自傷や自死の対応は、多くはないですが必ずあるので。
- ・自傷行為を行う生徒らの支援の参考になったので。
- ・実際の事例を紹介していただけたのが非常に勉強になりました。臨床ではうまくいくときもあれば、いけないときもあり、まさに紆余曲折のものがたくさんあると思います。(人間なのでそれが当たり前のでしょうが)自分自身が他に心理師がいない職場なので、現場の方の試行錯誤がわかる事例はとても有り難かったです。
- ・今回のテーマについて、新たな視点を得ることができたため。

午前の部：講義「救急の現場から考える自殺未遂者支援について～まずは自殺未遂を理解することから～」を受講されてのご感想やご意見を自由にお書きください。

- ・非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- ・救急医療に精神科医師が携わっておられることを初めて知りました。また、古郷先生は、積極的にコミュニケーションをとっているとおっしゃっていたのが印象的でした。
- ・PEECを2/8受講しました。多くの医療従事者が受講できたらと感じました。
- ・年代によって傾向が違うという分析があり、年代によって対応の仕方を考える必要があることに気づかされました。特に若者の自殺は慎重な対応が必要だし、目の前のクライアントに対しチームで対応していこう、という気持ちになりました。
- ・とても貴重なお話を聞いて勉強になりました。機会があったらPEECも受講してみたいと思います。
- ・未遂であったとしても、慎重に関わることの重要性を学びました。衝動性も自殺する要因にあるとの指摘は、10代の学生相談に携わっているので、十分、注意が必要だと身が引き締められました。
- ・一番命の危機がある場面には立ち会ったことがないので、非常に新鮮なお話でした。今回の話だけに留まらず、今後の学びのガイドもくださり、ありがたかったです。
- ・古郷先生の救命救急センターの常駐精神科医（全国でも十指あまり）としてのお話しが、とても聞き応えがあってよかったです。若年層の自殺関連行動について、これまでの理論に加えて、経済行動学の視点からの読み解きは、きわめて示唆に富むものでした。なるほどと腑に落ちました。先週の第13回PEECコース受講の内容とも併せて、役立つ学びを深めることができました。
- ・なかなか聞くことのできない自殺未遂者への対応について、現場の先生から新たな知見を得ることができました。
- ・宮崎の現実を目の当たりにして、「誰にでも起こりうる」ということを改めて感じ、向き合っていく心づもりが必要だと思いました。
- ・若年層の自死について、行動経済学を援用して考えるというヒントをいただいたから
- ・長く関わる現場ではないからこそ、つながること、誰と誰をつなげていくかを重視して、日頃から活動されているということに、改めて連携とは何かを考えさせられました。自身の活動が閉鎖的すぎると反省です。
- ・県北の医療領域にも、救急の対応ができる精神科医がいてくださったらどんなに心強يدろうかと感じました。まずは身近なスタッフのスティグマから取り組んでいきたいと思います。
- ・とてもわかり易く理解できた。実際の臨床の場面も知ることができて臨場感があった。
- ・講師の豊富な経験を聞くことができた
- ・学生の語る死生観に違和感や分からなさを感じていたので、講義を受けて腑に落ちました。先生の今後の研究や分析の結果も大変気になります。機会がありましたら是非またお話を聞きたいです。
- ・先生のフットワークの軽さに驚き、自殺未遂者支援という支援者にとってはストレスの高い現場だからこそ、スタッフ間のコミュニケーションや連携を大事にされていると感じました。チームで対応することの実際を学ばせていただきました。

令和5年度定例研修会アンケート

- ・若者層の自殺について、大切な情報や視点を知れたのが良かった。行動経済学を学んでみようと思った。
- ・基礎的な事から、実際の臨床場面の事など色々と聞けて、大変参考になりました。
- ・非常に勉強になった。年代別の特徴を踏まえた上での治療・対応アプローチは参考になった。深い精神病理や心因がなくても致命的な自殺企図を行う若者がいるという事実は興味深く、色んな視点からケースを見立てる必要があると感じた。
- ・県内の自殺未遂者の年代別の特徴が参考になりました。また、行動経済学的な視点が興味深く、若年者の自殺のみならず、他のケースを理解する際にも有効ではないかと思いました。
- ・行動経済学的視点、自殺能力の視点を学ばせていただいた。改めて TALK の原則に基づいて適切な支援をしていきたいと思います。
- ・特に若者の自殺について、世界的に増加傾向だというのが、興味深かったです。そして先生が話された、特に理由が見当たらないということも。様々な要因が複合的に絡む問題ではあるのだろうとは思いますが、この課題にこれから自分たち人間はどう向き合っていけばいいのか…悩ましいなとも思いました。
- ・思春期の子ども達は、希死念慮、自殺をどのように理解をすればよいかと思うことがあります。今回の講義で得られた視点は、思春期の子ども達を理解する上で、大変役立つものとなりました。また、先生のお話しにありましたように、つながりをもって支援をしていかなければと思いました。大変貴重なお話をありがとうございました。

午後の部：事例提供①「背景から考える子どもの自傷」についての感想や意見を自由にお書きください。

- ・犯罪被害に遭い自傷行為を行うお子さんもいらっしゃるの、そういったことも考えながら話をおききました。現場の先生方が家族よりも長い時間を過ごしながらい生懸命対応されている様子が伝わりました。
- ・養護施設での支援の難しさを学びました。心理師の役割について、考えた事例でした。
- ・子どもたちの自傷には様々な要因や背景があるということを丁寧に考えていく必要があると感じました。
- ・とても難しい現場で働かれていることに、ただただ尊敬しました。私も日々悩んでいるポイントでもあったため、共感する部分も多かったです。
- ・施設に入所する時点で脆弱な基盤の子どもにどう向き合うか、臨床の構造を超えた人間対人間の真剣勝負にも感じ、難しさを痛感しました。
- ・架空事例といえど、現場の空気感がありありと伝わってきました。
- ・見相がなすべきことがもっとたくさんあるかもしれない、と反省しきりです。期せずして、事例提供①と②との共通性やつながり等も連想しました。心理的な支援以前というか、ヒトという生き物がより良く生きるための基盤づくりを考えさせられました。私たち心理職がどのように貢献できるか。クライアントの方々や組織を前にして、私たちがなすべきことも、できうることも、まだまだたくさんあることを確認できました。
- ・児童養護施設の被虐待で入所している児童の状況や職員の対応など報告が聞けたのはよかった。提出する事例は一つにして、面接過程や問題への対応など掘り下げた報告が欲しかった。
- ・施設の子も達は抱えているものも大きく、そこに向き合う事はかなりエネルギーを使うものとお察しします。先生の事例を、もっと聞かせていただきたいと思いました。生活場面にも入らなければならない現場の難しさなど、色々あるのではないかなあと思いました。
- ・事例とともに児童養護施設の様子が学べました
- ・さまざまな背景をもつ子どもたちとの関わりのなかで、その子が示す自傷の意味をグループ討議できて大変勉強になりました。架空事例ということで、発表者の山根先生が大変頭を悩ませながらも貴重な事例をまとめてくださり感謝いたします。
- ・児童領域は全くの専門外なため、様々なことが学べました。皆様が日頃どのように事例に取り組まれているのか、グループワークも含めてとても勉強になりました。子どもには様々な職種の様々な支援者が複雑に絡み合うので連携の仕方も配慮が必要なのですね。
- ・架空事例とのことだったので、わからないことも質問に躊躇してしまいました。ただ、グループでディスカッションできたことはとても良かった。
- ・検討事例は”問題”なのか疑問に感じた。本人の困り感を確認するところから始めるべき
- ・複雑な背景を抱える子ども達を心身両面から日々丁寧にケアされていることがとてもよく分かりました。医療へ繋ぐ難しさを自分の臨床の中でも度々感じるの、今回のケースを通して学びが深まりました。まずは自分自身が積極的に、医療や様々な領域と繋がる努力をしたいと思いました。

令和5年度定例研修会アンケート

- ・施設の子どもの自傷は想像以上に多いのだと感じました。発表者の方はたくさんの難しいケースに対応されてきたのだと感じ、架空事例ですが、施設内で自傷行為に対してどのように普段対応されているのかも知りたいと思いました。
- ・養護施設心理師の大変さには毎回本当に頭が下がります。それぞれのお子さんの臨床像がわかりやすく、質問もしやすい雰囲気、みなさんの視点も知れて、面白かったです。
- ・他の領域の先生方と討議でき、とても参考になりました。
- ・児童養護施設の状況を知る良い機会になった。またグループで事例検討を行うことで、子どもの自傷への働きかけについて考えを深めることができた。
- ・グループディスカッションの時間があつたことで、良い意味で気軽に話し合うことができ、考えを深めたり、自分にはない考え方を教えてもらったりすることができました。児童養護施設についてもほとんど知らなかったの、基本的な情報から教えていただけ良かったです。
- ・架空事例であるが、私が関与している（してきた）児童・生徒の顔がちらつきながら講義を受講でき、更にグループ討議に参加したので、より現実的に考えることができたし、他の方のご意見等をお聞きできて参考になった。こうした児童らを長年支援されてきている中で効果的な支援やテクニックを教えていただきたいと思った。
- ・ハード面でも人員配置的な意味でも、今の日本はこうした家庭の庇護下にはない子供たちに厳しいなと思いました。もっとこうしたところにお金を出して欲しいと政府に…私たち大人が声をあげていかねばと思ったところでした。
- ・事例を出していただくこと難しさがある中、架空のケースを練っていただきまして、ありがとうございました。児童養護施設は生活の場でもあり、心理職は面接の場だけではなく、生活全般にも目を向けて他職種と協力しながら自傷行為への支援をすることが求められるのだと思いました。施設内で他職種とどのようにつながりながら支援をされているのか、さらに教えていただきたいと思いました。

午後の部：事例提供②「幼少期より希死念慮を抱える患者との関わり」についての感想

や意見を自由にお書きください。

・事例の対応をきき、これ以上できることはないだろうと思いました。病院の先生方は本当に一生懸命手を尽くしておられると感じました。様々なアプローチのおかげで、その方にとって、自助グループが居場所のひとつになったし、その時の状態や気分はあるにしろ、病院は安心できる場所になっているのだと感じました。

・アディクションの難しさを学んだ事例でした。継続して支援する心理師の姿勢を学びました。

・対応を粘り強く続けていくしか無い、という状況のなかで臨床をされている事例を伺い、勇気をいただきました。心理士としてできることは限られていますが、決してこちら側は諦めないけれどそれを押し付けてもいけないので、葛藤しながらになります。葛藤しながらでも焦らずに対応していきたいと思いました。

・乳幼児期の発達に関わる現場で働いています。今、見ている子どもの中に今回のケースのような道筋を辿りそうな子どもたちもいます。どうしたらリスクを減らせるのか、改めて考えさせられました。

・支配的な母のもと、ジェットコースターのように激しい気分の波に薬物が絡み、発達障害がベースにある中で、面接を続けてきた渡具知先生の真摯に対応する姿勢に頭が下がります。自分が役に立つならとインタビューに臨んでくださったことにも意味があったと思います。治療の終わりがなかなか見えませんが、それでも「生きる」こと、もしくは生きていくだけで〇だという事実を共有できたらいいような気もしました。

・薄氷を踏むような経験を長きにわたって歩いてこられた患者さんと発表者さんに、だたただ唸るばかりでした。大切な体験を共有くださったことに感謝します。

もっとフロアから意見があってもいいのですが、何も思いつかなかったわけでもあるまいし、と疑問に思いました。

・とても聞き応えのある内容でした。発達障がいとアディクションとは相性が良さすぎて、大悟病院チームの実践はとても勉強になります。回復している[回復途上の人も含む?]人となりが繋がっていることが重要、とのお話もなるほどでした。ACEs(小児期の逆境体験)や被虐待からのサバイブ体験、また(裏テーマとしての)ジェンダー問題についても考えさせられました。発達障がいがあると、ふりかえりや時間的展望の苦手さ、疲れやすさ等ゆえに、本人が元々持っている能力や強み、良さや魅力等がうまく引き出せずに苦勞することも増えがちです。医療チーム(プロ)と自助グループ(ピア)が車の両輪となり、Aさんの杖や鏡や羅針盤となっている様子がいいなと感じました。

・重い事例にチームで真摯に取り組んでおられることに敬服した。報告が長すぎ全体像やポイントが分かりづらかった。流れを整理して理解しやすくし、途中で質問を受けるなどの工夫も必要と感じた。

・事例の重みに圧倒されました。そして渡具知先生の真摯に向き合われる姿に感服いたしました。一体どうやってご自身のメンタルヘルスを保っていらっしゃるのだろうと、その辺りも機会があればお聞きしたいです。

・大変なケースに長く上手に対応しておられてすごいと思いました。生死の問題は先延ばし、というのが印象的で勉強になりました。ありがとうございます。

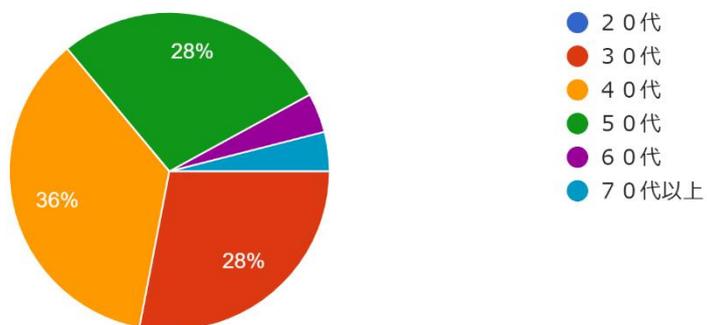
令和5年度定例研修会アンケート

- ・死を希求するクライアントとのかわり、待つこと、保留すること、本人の選択を重視する姿勢を貫くことは言葉で表現する以上の、葛藤とエネルギーを消費していることと思います。そんな、貴重な経験を事例にいただき感謝します。
- ・かなり複雑な事例でしたが本人と主治医を軸に手厚い支援を展開していて驚きました。本人にどこか支援してあげたいと思わせる魅力があるのかもしれないなと思いながらうかがっていました。
- ・現場での苦労や葛藤がとても伝わる事例でした。ただボリュームがあり、自分の中に落とし込むことが途中から難しくなりました。もう少し目的や対象を絞って検討できたらなお良かったかもしれない。
- ・長期にチームでじっくり関わる病院臨床のおもしろさを思い出し、懐かしかった
- ・見立ての中で「希死念慮がなくなることはない」と考えておられるところにハッとさせられました。ケースにあたっていると希死念慮をなくすには…という思考になってしまいがちなのですが、“希死念慮があることも含めての、この人”と捉えると、もっと柔軟な対応を考えることができるのではないかと、自分を振り返る機会になりました。
- ・ケースの経過と心理士の方と病院の根気強い対応に圧倒されました。患者さんのインタビューも非常に貴重で、患者さん側から見た支援者へのニーズが的確で切実だと感じ、非常に勉強になりました。
- ・最後のご本人インタビューでの貴重な映像までありがとうございました。実際に見ることで、どのような方なのか分かりやすくなりました。
- ・病院における依存症へのアプローチについて理解を深めることができた。支援者自身も葛藤を抱えやすい事例だと思うが、患者さんと丁寧に向き合い、信頼関係を構築されている経過を細やかに知ることができ大変勉強になった。心理士とのつながりが患者さんの拠り所の一つになっていると感じた。
- ・セラピストが丁寧に誠実に根気強く関わっておられる姿に頭が下がる思いでした。当事者の生の声を伺える機会も大変貴重でした。自分のケースへの関わり方、心理士としての姿勢についても見直す機会を頂けました。
- ・まず、渡具知先生の支援のすばらしさに感銘を受けました。九州臨床心理学会などの学会に発表してもらいたいと思いました。個人的に渡具知先生にもお伝えさせていただいたが、各心理検査を使って本人に変化の状況を伝えて支援していくのがいいのではないかと思います。
- ・実際の事例を紹介していただけたのが非常に勉強になりました。臨床ではうまくいくときもあれば、いけないときもあり、まさに紆余曲折のものがたくさんあると思います。(人間なのでそれが当たり前なのでしょうが)自分自身が他に心理師がいない職場なので、現場の方の試行錯誤がわかる事例はとて有り難かったです。
- ・様々なリスク要因を抱えた方を支援し続けることは、大変力のいることだと思います。今回の事例検討を通して、サポートに関わり続けることの大切さ、信頼できる支援者をつないでいくことの大切さを学ぶことができました。支援に用いられていた技法について、さらにお話を伺えればと思いました。

令和5年度定例研修会アンケート

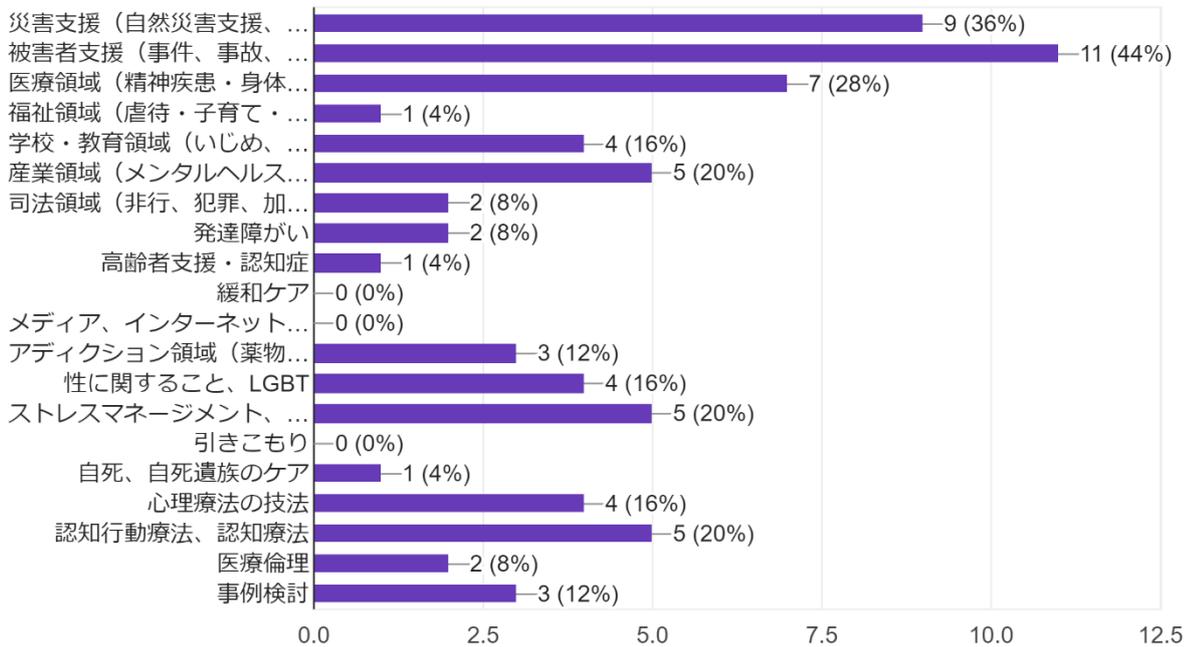
あなたの年代についてお答えください

25件の回答



令和5年度定例研修会アンケート

今後の研修会でとりあげてほしいテーマについてチェックを入れてください（3つまで複数選択）
25件の回答



今後、取り上げてほしいテーマや研修、希望する講師等がございましたらご記入ください。

- ・今回のように、各分野の事例検討は大変学びになります。
- ・宮口幸治
- ・軽度～境界域知的障害と学校・職場・司法、木谷秀勝先生
- ・テーマ：子どもの心身症への心理的支援、マインドフルネス等。講師：芦谷道子（アシタニミチコ）先生。養成講師）
- ・性教育に関する事柄や実践について
- ・PTSD と診断がついているケースにどのようにアプローチしていくか、事例や講義を聞いてみたいです。
- ・動機付け面接法の基礎とロールプレイ
- ・やはり事例検討が面白いし、具体的に学べて勉強になると思います。特に、再来年度に九州臨床心理学会を当県が引き受けるのであれば、事例検討を経験しておくことは有効かと思います。

令和5年度定例研修会アンケート

今回の研修運営に関して、改善点等、お気づきの事があればご自由にご記入ください。

- ・スクリーンがなく、壁紙の模様でスライドが非常に見にくかったです。
 - ・開催場所が、車以外でも行きやすいところだと良いと思います。
 - ・いつも準備、運営等、ありがとうございます。
 - ・研修運営について、感謝しかありません。準備、片付け大変だと思います。ありがとうございます。
 - ・準備から当日運営まで本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。
 - ・研修の準備お疲れ様でした。進行もとてもスムーズで分かりやすく良かったです。
 - ・運営ありがとうございました。準備をお手伝いできずすみません。
 - ・貴重な学びの場づくりと研修ポイントのご配慮をいただき、研修の企画・運営チームの皆さま方には大変お世話になり、ありがとうございました。
 - ・研修会の企画・実行から当日の運営、後片付け等まで、けっきょく何もできずに申し訳ございませんでした。
 - ・皆さま方にたくさんのお気遣いをいただいたおかげで参加できやすく、研修の内容そのものに全集中させていただくことができました。
 - ・受講申し込みや受講アンケートの電子化等も、合理的かつ便利で助かりました。
 - ・願わくば、せっかくの対面式（リアル）の研修会だったので、もう少しチーム・ビルディング（参加者同士が知り合いになりやすくする）を意図した仕掛けやファシリテーションなどがあつたら、さらにおもしろくなったかもしれないと思いました。
 - ・お疲れさまでした。準備や運営などよかったですと思います。
- できれば、場所が分かりづらいところなので、早めに駐車場や昼食のこと等々情報提供して頂けると安心できるかなと思いました。
- ・研修運営本当にお疲れ様でした。事例2の司会を担当させていただきましたが、運営等に全く関与せず大変失礼致しました。久しぶりの対面式の研修会で、ご準備大変だったことと思います。ありがとうございます。
 - ・運営の皆様、お疲れ様でした。
 - ・研修中、マイク回しや写真撮影等をしていただいている方がベテランの方ばかりで、申し訳なく感じました。今は自己申告制になっているため難しいかもしれないが、例えば入会して5年以内の方をお願いするなど対策を考えてもいいのかなと思いました。
 - ・スクリーンが見づらかった
 - ・貴重な学びの機会をありがとうございました。
 - ・運営の皆さま、ありがとうございました。
 - ・より多くの会員が本研修会に参加するためには、オンラインでの受講も可能にすると良いのではないだろうか。また、午前の部（講演）については、非会員も参加可能とすると、会に加入するきっかけ作りになるのではないだろうか。
 - ・この度はありがとうございました。
 - ・久しぶりの対面の研修会となり、運営委員会の皆様には大変お世話になりました。今後、研修運営メンバーには、様々な方々が携わっていただけるとよいと思いました。